

2011年3月31日

アステラス創製化合物の開発におけるカーディウス社/三井グローバル投資 との提携に関するお知らせ

-研究開発プロセスの“マルチトラック化”を実現する新たなモデルの提案-

アステラス製薬株式会社（本社：東京都、社長：野木森 雅郁、以下「アステラス製薬」）はカーディウス ファーマシューティカルズ社（英名：Cardeus Pharmaceuticals, Inc.、本社：米国、カリフォルニア州、社長 Dr. Karen J. Brunke、以下「カーディウス社」）と、アステラス製薬創製の3つの化合物について日本を除く全世界での開発・製造・商業化に関する独占的ライセンス契約を本日締結しましたので、お知らせします。

本契約に基づき、アステラス製薬は臨床段階にある I_f チャネル阻害剤 YM758、選択的 COX1 阻害剤 ASP6537 及び前臨床段階にある1つの化合物をカーディウス社へ導出します。カーディウス社は今後、対象地域において、これらの化合物の開発、製造、商業化の全ての責任を負うとともに、費用を負担します。

本契約締結により、アステラス製薬はカーディウス社より契約締結一時金、開発マイルストーン及び売上達成に応じた追加の一時金のほか、売上に応じたロイヤリティを受け取る権利を有しています。また、アステラス製薬はこれら3つの化合物について、カーディウス社が他社との提携を検討する場合、欧州市場と米国市場についての第一交渉権(rights of first negotiation)及び中国市場についての第一拒否権(rights of first refusal)を有しています。

カーディウス社は、Mitsui & Co. Global Investment, Inc.,（所在地：米国、社長：木村 健一、以下「三井グローバル投資」）の支援によって新たに設立されましたが、今後、三井グローバル投資、アステラス ベンチャー マネジメント LLC（アステラス製薬の子会社ベンチャーキャピタル、所在地：米国、カリフォルニア州）を含む投資家を対象とした資金調達活動を開始します。

このたびの提携について、カーディウス社社長の Dr. Karen J. Brunke は以下のように述べています。「アステラス製薬のような世界的に実績のある企業の革新的な化合物を開発する機会を得たことを、大変嬉しく思います。」また、同氏は次のように付け加えています。「アンメットメディカル ニーズの高い領域における新薬を患者さんのもとへ、いち早くお届けしたいと考えています。」

また、アステラス製薬の野木森 雅郁社長は、次のように述べています。「自社開発に加えて、積極的な企業買収や製品導入を通じて、開発パイプラインの充実を図る一方で、増大する開発コストの適正なマネジメントをするために、化合物の優先順位づけがこれまで以上に重要になってきています。この検討の中で、現時点で他の化合物との関係で優先順位は落とさざるを得ないものの、有用な医薬品となる可能性を有する化合物もあり、これらについては、自社開発費を増加させることなく開発継続を実現し、将来当社が関与する道を残すことが、患者さんをはじめとする当社のス

テークホルダーにとって最善の選択肢であると考えます。本提携は、これら複数の要件を満たす解決策であり、カーディウス社における開発の成功に大きな期待を寄せています。」

三井グローバル投資の木村健一社長は、「昨今の動きの早い社会・経済情勢の中で、単独企業が膨大な研究開発のリスクを負担することは益々難しくなっており、我々はこの様なリスクに対する1つのソリューションをカーディウス社の取り組みを通じて提案し、オープンイノベーションに貢献していきたい。」と述べています。

アステラス製薬は、できる限り多くの革新的な新薬を医療の場に提供すると同時に、より一層複雑になる研究開発リスクの適正管理を、バランス良く行う必要があると考えています。今回の提携により実現される研究開発プロセスの“マルチトラック化”は、この命題を実現するひとつの仕組みであり、今後もこの様な研究開発プロセスのリモデリングを継続検討する方針です。

以 上

お問い合わせ先
アステラス製薬株式会社 広報部
TEL:03-3244-3201
HP: http://www.astellas.com/jp